令和8年度　第119回日展　大臣賞受賞者一覧

文部科学大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	春の野を焼く	中村賢次		会員	今回の作品は、作者が毎年テーマとする野焼きの集大成のような完成度の高い作品になっている。阿蘇野のふもとを舞台に、深みのある色彩で冬の大地に潜む生命の息吹を描き出している。野火の痕跡を残す風景には、厳しい自然の中にも春を待つ静かな力が感じられる。大地を包む色彩の重なりが、季節の移ろいと共に再生への予感をも生み、やがて訪れる春への願いと、未来に向けた希望を感じる豊かな表現とスケールの大きな表現力を高く評価する。
洋画	慈	佐渡一清		会員	しっかりしたデッサン力、堅実な油彩画の筆使いを土台にして、自己の感情を絵画化している。 人物を中心に空、海、貝殻、砂浜等を抽象的な表現とし組み合わせて広がりのある詩的な作品となっている。 今までの日展洋画の伝統をふまえながら、新しい現代の具象絵画を創造している。

内閣総理大臣賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
彫刻	牧歌幻想	廣川政和		会員	軽やかに馬の背に横乗りする清楚な少女を大胆な構成で至極自然に一体的に仕上げ、野に浮遊するが如き塑像を見事に具現化した。確かなモデリング技術により、人間性と野性の共鳴が肌理細やかに描出され、親密さと高貴さ、日常と非日常、現実と夢想を柔らかく包摂する具象彫刻の可能性を拓く豊かな力を湛える。
工芸	琥珀―月輪	林　香君		会員	有機的で動きのある形態。木の年輪を思わせる意匠。観る者は一瞬、戸惑い、やがて題名通りの、豊潤な詩的な世界を感じるだろう。本作の持つ洗練された武骨さという真逆な感覚は、作者の経験に基づく弛まぬ冒険心から創造された、全く独自の表現である。正に受賞に相応しい、発想と技術を存分に発揮した非凡な作品に仕上げている。
書	東叡山観桜	吉澤鐵之	南樹	会員	古典に学ぶ力強く伸びやかな筆線と、現代的な感覚の調和。宋代の書家・米芾を起点に、光沢のあるサテン地（絹）を使うことで、筆のかすれやにじみが独特のリズムを生み出し、多様で豊かな墨色の表現に成功した。上下の二枚が見事に空間として連続し、詩のもつイメージと書の造形が、壮大な世界を作り出している。

令和8年度　第119回日展　東京都知事賞受賞者一覧

東京都知事賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	海へ漕ぎ出す	岩田壮平		会員・審査員	題名が示すように、新たな世界への出発を内包して描いてある。芥子の花を得意のモチーフとして描いている作家で、鮮烈で華やかな色彩が画面に強い生命力と躍動感をもたらしているが、視点を自然に画面の外へと誘い、未知の世界へと広がる、想像力を生みだしている。未来に向う、開放感を感じさせる作品となっている。
洋　画	云何遊此娑婆世界	石田宗之		会員	現実と架空の空間世界を確実な描写により、たいへんユニークな視点で表現している。ハッチングによる緻密でデリケートな技法と大胆な筆タッチを織り交ぜ、色彩を効かせた個性的な作品である。 今後の日展洋画を支える作家として、際立った存在感を示している。
彫　刻	群像劇	田中厚好	鈴木厚子	会員・審査員	美しくも眼の鋭い十羽の鳥、作者の細部にいたる迄ゆきとどいた観察力を、あますところなく表現する力量は、作品をきわめて魅力的にしている。群像彫像の表現の難解さを破綻なくまとめ上げ、都会の街角の人々の動きを恰も彷彿とさせるイメージを思い浮かばせるような作品である。都知事賞に最も相応しい。
工芸美術	極光	安藤　工		会員	天から極地に降り注ぐオーロラの光のゆらめきを、金の輝きと釉の鮮やかな色彩により表す。作品上端の切りたった緊張感あふれるエッジや、ザラザラとした荒い手触りの素材、また作品全体を秩序づける細長い縦の稜線によって、高緯度地帯の冷たく厳しい気候を感じさせることにも成功している。壮大な自然のドラマを陶で見事に再現した。
書	平安に想いを馳せて	近藤浩乎		会員・審査員	全体的な配字からは、密・疎・密と言った劇的な変化が感ぜられる。また筆致を見ると、中央で大きく豊潤な筆勢に展開した後、また基調であるかすれた筆に戻る点などからは緩・急・緩と言った躍動感が顕著である。一見、自由奔放とも見える構図でありつつも、作者の緻密な計算の結果であることをうかがわせる作品である。

令和8年度　第119回日展　日展会員賞受賞者一覧

日展会員賞

	作品名	作家名	本名	資格	授賞理由
日本画	saudade	佐藤俊介（さとうしゅんすけ）		会員	題名はポルトガル語で失われた人や場所とのこと、また題材は奥能登の作家にとって思い出深い限界集落とのことだが、寂しい秋の風景を単なる情緒的な風景で終わらせず秀逸で不思議な趣を獲得し的確な描写、表現力があり賞に値する。
洋　画	早春の村（そうしゅんのむら）	高田啓介（たかだけいすけ）		会員	かつて、ある映画の主人公が描く絵として、この作家の作品がとり上げられたことがあった。東北の荒々しい風景は彼にしか描けない。今回の作品も寒々とした情景を熱い情熱で表現している。理屈抜きで心を打つ作品だ。
彫　刻	旅立ち（たびたち）	熊谷喜美子（くまがいきみこ）		会員・審査員	真夏、夏休みで帰省するのか、若い女性は未来を見つめて立っている。その視線は新しい場所へ、否、人生の新しい段階へと一歩踏み出そうとしている様に思われる。スッと佇んでいる若々しい姿は美しい。この彫像は希望と決意の表現が見事に一致し、作者の力量が感じられ、日展会員賞として最も秀逸な作品である。
工芸美術	水泉動（しみずあたたかをふくむ）	武田　司（たけだつかさ）		会員	まだ落葉と雪の散り敷いた、地下深くを流れる水脈に春の兆しを見る。パネルの両端をわずかに湾曲させて、深い穴を覗き込むような気にさせる。実際に地中の水を見ることはできない。しかし職人が巧みに井戸を掘りあてるように、人は地下にあるそれを感じているのだ。こうした人間と自然の密やかな交感を、想像力豊かに形象化している。
書	詩情畫意（しじょうがい）	稲村龍谷（いなむらりゅうこく）	定則	会員	一見、素朴でありながらも力強い線。白地と朱線のバランスをやや傾けることによって、豊かな人間性を感じさせる深みのある表現に到達した。東アジア藝術は線のもつ無限の可能性を追求してきたが、これは長年の修練によってはじめて可能となる。落款を含めた全体の味わいに、藝術と生命を喜ぶような深い感動を覚える。